



【戦評シート】

平成 16 年 5 月 2 日 (日)	協会名： 能代市 バスケットボール協会
場 所： 能代市総合体育館	記入者： 岩谷 修一
チームA 能代工業高校 72	チームB 新潟商業高校 80

スターター	チームA： #4宮城、#5二田、#6信平、#7梁川、#8齊藤
	チームB： #4佐々木、#5小沢、#6店橋、#7齊藤、#11坂上
ディフェンス (試合開始時)	チームA： <input type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン (2-2-1) <input type="checkbox"/> その他 ()
	チームB： <input type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン () <input type="checkbox"/> その他 ()

第1Q、能工は、オールコートゾーンディフェンス。新潟商は、マンツーマンディフェンスでスタート。能工は#5二田のジャンプシュートで先制するが、新潟商は#6店橋、#4佐々木の3Pなどで2-8とリード。能工#5二田の速攻、#8齊藤の3Pなどで応戦するも、新潟商は確実に能工のゾーンをかいくぐってボールを運び、#6店橋、#11坂上がシュートを決めていく。能工らしからぬターンオーバーもあり17-24と新潟が主導権を握った。

第2Qは能工の激しいディフェンス、#5二田のリバウンド、#6信平の攻守が光り、#4宮城のドライブイン、3P、#8齊藤の3Pで残り5分には一気に27-24と逆転。すかさず新潟はタイムアウト。ここで新潟はディフェンスでプレッシャーを与え能工の足を止める。新潟#7齊藤はドライブインから#11坂上へ鮮やかなアシスト。またしても28-28の同点と両チーム一進一退の攻防を続ける。結局前半は能工が34-32のわずか2点リードで折り返した。

第3Qも実力は伯仲し、追いつ追われつの展開は続く。能工#4宮城の3Pが決まれば新潟#6店橋が3Pを返す場面は会場を沸かせた。残り4分に#6信平を投入し、リズムをつかんだ能工は58-55の3点リードで最終クォーターを迎えた。

第4Qは、開始から新潟商の#5小沢がゴール下を支配する。更に#4佐々木の要所での3Pが決まり、残り5分で62-70とじりじりと新潟が引き離す。能工は、タイムアウトを請求し、挽回をはかるが、新潟商は落ち着いてボールを運び、着実に加点する。能工は#5二田の気迫のこもったゴール下や#9金谷の3Pで追いつがるが、新潟商は残り時間を有効に使い、80-72で逃げ切った。

注意：文面には試合内容のみご記入下さい。